



「熟慮する力」を

茨城大学理事・副学長(教育担当) 田代尚弘

かつて、ショウペンハウアー (1788-1860) というドイツの哲学者がいました。学生の皆さんには、なじみのない名前かも知れませんが、彼は『読書について』という本の中で、次のような内容のことを書いています。〈食物は食べるだけで栄養になるのではなく、消化されて栄養となる。同じように、読書が本当に自分の栄養になるには、熟慮が必要だ〉。これは「読書」の大切さを説くための「類比 (アナロジー)」です。

ショウペンハウアーの思想自体はかなり難解ですが、この「アナロジー」は、とてもわかりやすいものです。この「アナロジー」は、いろいろな文脈で一般化したり、解釈したりできますが、ここでは「熟慮」という点に焦点を合わせてみましょう。「熟慮」とは文字どおり、「ある事柄について真剣に、十分に考えること」ですが、その目的は「ある何らかの真実や深層」を「読み解き、その上で何らかの判断・決定を下す」ことにあります。読書の形と目的はさまざまですが、すくなくともその目的の一つは、自分自身や社会、また自然界の「真実や深層」を読み解き、そうして自分の考えや行動に何らかの方向性を与えることにあるでしょう。それはわたしたちが「食物」をよく噛み砕いて消化し、そうして栄養を摂取し、その栄養を何らかの目的のために使う行為と似ているかも知れません。

わたしたちは、今日、情報の量と速さ、効率性、視角の優位などに圧倒され、上述のような意味で、物事を「熟慮」して「判断・決定」する余裕をもてないような状況に置かれているように思われます。しかし、「熟慮」するという姿勢や行為は、いわば川の流れの表面ではなく、川の流れを作り出す川底を洞察し、流れの危険性を察知する「力」でもあります。社会や自然の諸現象についても、その現象を作り出している「底」を「熟慮」することがなければ、わたしたちの生活する社会や自然の「真実や深層」を「読み解き」、社会の方向性やその危険性、自然の脅威などを察知することは難しいのではないのでしょうか。

学生の皆さんには、時代の表層的な流れに流されることなく、大学でのさまざまな「学び」をとおして「熟慮する力」を培って頂ければと思います。



ローザ・プルムラ 第43号

(平成23年度10月発行)

目次

巻頭言 「熟慮する力」を (副学長 田代尚弘).....	1
大学教育センターより.....	2
特集① 平成22年度推奨授業表彰.....	3
特集② 就業力GPI「根力(ねぢから)育成プログラム」.....	6
学生の声・編集後記.....	8

大学教育センターより

見つめなおしてみよう

大学教育センター副センター長(企画実施部長) 戸嶋 浩 明



平成23年度から大学教育センターの副センター長として、皆さんの受ける教養教育に関するお手伝いをするようになりました。私の所属は阿見にある農学部ですので、週に数回は水戸の大学教育センターに通っています。この春から新しい勤務体制になって私もようやく落ち着いてきたかなという状況です。

さて、1年生の皆さんも前学期、夏休みを経て大学生活にそろそろ慣れたころだと思います。特にこの春は3月11日の東北地方太平洋沖地震による東日本大震災、原発事故(その後の政治の混迷等々)、私たち日本人が忘れてはならない事象が発生した混乱の最中での変則的な学務日程での入学となり、皆さんにとっても教職員にとっても記憶に残らざるを得ないスタートとなりました。皆さんの多くは高校生(またはそれぞれの異なる経歴)から大学生へと、私は農学部だけの職務から大学教育センターも兼務するという新しい環境に置かれたわけです。そのような節目のときに過去を見つめ直して、見つめ直した解答を活かして現在から未来に向かってどう対処していくか考えてみましょう。個人で考えるのもよし、語り合える友人をたくさんつくって議論するのもよし、授業で興味を持った先生方と話してみるのもよしでしょう。大学生に求められる一番重要なことは、これまでどちらかというと受動的であった学び方を能動的に変えていくこと、そこに気づいて実践していくことだと思います。皆さんの学ぶ教養教育を見つめ直して上手く利用していきましょう。

3月11日の巨大地震は自然現象であり避けようがなかったわけですが、その後の国難と言える惨状は回避できた部分も相当にあることでしょう。復興に向けて日本社会全体でも様々なことを見つめ直すべき時期に我々はいまいます。教養教育は個人レベルでは生涯におよぶ自己形成の基礎として何を学ぶか、社会レベルでは複雑化し多様化する現代社会を分析して将来の職業観を身に着けるための基礎と今後につなげる何を学ぶか、そして国難を解決するために何を総合的に学んでおけばよいのか、その答えが教養教育のなかにちりばめられていると思います。どうか能動的に見つめ直して、価値あるよき大学生活を送ってください。

『理系質問室』からのお知らせ



授業や自習でわからないことはありませんか? 理系質問室では、理系科目についての質問を大学教育センターの専任教員と指導員が受けています。質問内容は理系科目であれば何でもOK。「この科目をもう少し深く勉強したい」、「勉強の仕方がわからない」などの相談でもかまいません。気軽に、そして大いに利用して下さい。

場 所 共通教育棟1号館1階130室

開室時間 月曜から金曜まで 11:30 ~ 13:00

(※開室曜日と時間帯は変更になる場合があります。掲示等で確認をお願いします。)

特集①

平成22年度推奨授業表彰

推奨授業表彰制度は、年度終了ごとに教養科目の中から推奨授業を選定し、担当教員を表彰することによって授業の質的向上を図ることを目的として、2001年度に制定されました。

推奨授業の対象は、専任教員が担当するすべての正課授業であり、「推奨授業推薦書」、「学生による授業評価」、「当該授業の成績評価」、「シラバス」など教育上の努力や工夫、優秀な教育技術等を総合的に評価し選定されます。

平成22年度推奨授業には、次の3つの授業が選定されました。

●「水惑星の地球科学」(分野別教養科目【自然系】/身近な地球科学)

理学部 藤縄 明彦 先生

授業概要：地球は多量の液体の水を有し、多様な生命を宿している、唯一の惑星である。この水の存在は、地球表層や気圏ばかりでなく、固体地球（地球の内部）の営みの中にも、大きな影響を与え続けている。一見、水とは関係のないことのように思われる地学現象にも、水は大切な役割を果たしている、ということを、この授業を通じて学んでいこう。

●「異文化理解」(総合科目/人間・文化系科目)

留学生センター 藤原 智栄美 先生

授業概要：このクラスでは、異なる文化の人たちを理解するための基本的な考え方、また異文化理解の際に役に立つ概念を学んでいきます。また、日本、そして世界における様々な問題・トピックに関して日本人と留学生が討論することで、互いの文化、世界、そして日本の中に存在する様々な異文化に関わる問題に対する理解を深めます。

●「学術用英語」(外国語科目/総合英語(学術))

人文学部 永井 典子 先生

授業概要：この授業では、パワーポイントを使用してプレゼンテーションが効果的に行えることを最終目標とします。そのために、情報を英語で検索し、必要な情報を取捨選択し、英語でまとめ、発表用の原稿を作成し、効果的に口頭発表ができるようになるためのプロセスと技能を学びます。

*授業概要は平成22年度教養科目シラバスより抜粋



池田学長を中央に、左が藤縄先生、右が藤原先生
平成22年度推奨授業の表彰式



池田学長を中央に、左が永井先生、右に藤原先生
平成22年度推奨授業の表彰式 (H23. 6. 7 学長室において)

平成22年度推奨授業紹介

今回表彰された平成22年度の推奨授業を紹介します。3人の先生方が授業に注がれている熱い情熱を感じてください。学生のみなさんへのメッセージも必見です。

藤縄 明彦 先生 「水惑星の地球科学」

公開授業の参観感想文

藤縄先生の講義は対話重視型です。とは言え、「さあ質問をどうぞ」と促されても、通常学生は互いに譲りあって、下や横を向いてしまいます。そこで先生は理解内容のチェックとともに質問をカードに書かせる手法をとっています。質問に対する先生の回答はまるでご褒美のようです。パワーポイントを用い、文字、静止画像、動画、さらには実物見本(私が参観した講義ではさまざまな火成岩でした)をフル動員して直感的把握も助けてくれれば、想像力もかき立ててくれます。これは本人のためのみならず、クラス全員への恩恵にもなるありがたい「賞品」です。



講義の後で「学生の質問に丁寧に答えて、内容の把握・深化を確実なものとする一方で、シラバスにも配慮して授業も進めていらっしゃるんですね」と申し上げたところ、

「ルーチンワークなら、準備も楽ですが、教員の存在価値は「対人説法」をすることです。一方通行ではなしえない付加価値をつけていくことで、「サポーター」を増やしていくことが経営戦略としては正しいのではないのでしょうか。すぐに効果が見える訳でも、専門とする学生が増える訳でもありません。手間暇がかかる割に、効率は悪いです。

シラバスにも意味はありますが、自分にとっては「学生の反応」こそが宝物です。人と人との息づかいを感じることのできるコミュニケーションが授業の基本だと思っていますので、話の間とか観客との呼吸とかの点で、落語も非常に参考になります。芸に完璧がないのと同じで、我々の授業にも、常に改善すべき所があります。学生さん達の応援を糧に取り組み続けたいと思います。」

と丁寧にご回答いただきました。質問のしがいのあることがよくわかりいただけると思います。

佐藤 和夫 (大学教育センター長)

藤原 智栄美 先生 「異文化理解」

公開授業の参観感想文

参観日の授業は、通常の講義形式ではなく、「世界の仕組みを理解する～貿易ゲーム～」というグループ活動でした。100人近くの学生が、先生から説明された課題を、グループ全員で協力して問題解決に当たっている姿が非常に新鮮でした。貿易ゲームは、グループでどれだけお金を儲けるかという単純なものですが、グループの設定が同一ではなく(先進国、発展途上国、後発発展途上国と3つに分けられている)、それぞれ異なった状況の中から自分たちが戦略を立て行動し、その結果が金額としてはっきり表れます。課題の説明、役割分担、時間の設定など、先生と学生との連携が良く、準備された環境の中で活動が行われていました。また藤原先生の的確なアドバイスや様々な情報(価格の変動、スパイの出現)などがタイミングよく提供され、活動が停滞しないよううまくコントロールされていました。この授業形態が、PBL (Problem Based Learning) 学習の1つであると後で分

かったのですが、初めてこのような授業を見ることができ、今後の授業展開のヒントを多く得ることができ、非常に有益な授業参観になりました。

勝本 真 (大学教育センター副センター長)

藤原先生からのコメント



このクラスでは、普段なかなか学内でコミュニケーションの機会のない留学生と日本人学生が、ディスカッションや上記の「貿易ゲーム」のような参加型タスクを通して互いを知り合い、自身の見方について発見する様々な活動を行っています。異文化というと「国」と「国」の違いを考えがちですが、実はそれは文化を分ける一つの境界でしかなく、それにとらわれすぎると、ステレオタイプという画一的な見方で世界を捉えてしまうことになります。近年、その境を越えて人の移動が盛んになることで、日本、そして世界の文化が多面的になっています。茨城大学の皆さんには、そうした文化的な多様性を知る面白さを、学内にいる留学生との対話や留学等を通して、感じてほしいと思います。

永井 典子 先生 「学術用英語」

永井先生へのインタビュー

最初に、推奨授業表彰のご感想をお願いいたします。

びっくりしました。この授業は課題が多く、学生にとってはとても大変な授業だったので、学生は、後々良かった、と思うことはあるかもしれないけれど、授業終盤で満足度が高いとはあまり思っていませんでした。驚いたのが正直な気持ちです。でも、表彰されて大変感謝しております。

学生の満足度が高かった、というのは、授業に様々な工夫がされていたからだと思うのですが、どのような点が学生にとって良かったと思われますか。

この授業は、英語での発表のスキル向上に特化した授業だったのですが、そのためには、発表そのものに関するスキルだけではなく、準備段階で英語の資料を読み、必要な点を探し、まとめることも大事なスキルとなってきます。また、クラスメートの発表を聴き、評価もします。ですから、読む、聞く、話す、書く、という4技能すべてがトレーニングされることになったと思います。また、発表を4回行ったので、最終発表では、教員である私自身が感心するほど、全員が上手になりました。おそらく自分自身でも進歩を感じたのではないかと思います。評価も「発表」で行いましたので、学生にとっては目標が分かりやすく、どのように課題に取り組めば良いのか明確だったとも言えると思います。



学生が全員上手になった、というのは素晴らしいですね。では、学生たちへのメッセージをいただけますか。

最初の頃はあまりやる気がなかったような学生も、発表の回を重ねるごとに乗ってきて一生懸命課題に取り組んでいました。本当にどの学生にも無限の力があると思います。やればやるだけ伸びるすばらしい潜在能力を秘めています。私の課題は、その力をいかに伸ばすか、ということです。茨城大学の学生は素直で真面目なので、そのまま伸びていってくれれば、と願っています。

本日はどうもありがとうございました。

聞き手：岡山陽子 (大学教育センター専任教員)
2011年7月19日

特集② 就業力GP『根力(ねぢから)育成プログラム』

茨城大学は、平成22年、文部科学省の「大学生の就業力育成支援事業 GP」に採択され、大学生の就業力を育成する取り組みを5年計画で進めています。この特集では、茨城大学の就業力育成支援事業の中心である『根力(ねぢから)育成プログラム』について紹介します。

「GP」とは？

文部科学省が大学教育改革を促進するために、大学等が実施する教育改革の取組の中から優れた取組（Good Practice 略称「GP」）を選んで支援し、かつ広く社会に情報提供を行うことにより、他の大学等における教育改革の参考とすることを目的とした事業です。

…要するに、「他大学の模範となる優秀な取り組みの支援事業」です。

「就業力」とは？

「就業力」は単なる「就職力」ではありません。「就職試験を突破する力」を含むことは勿論ですが、就職後に社会人として活躍して行くために必要な知識・技能・課題解決能力から職業観・人生観まで、より広く・深い「力」の総称です。



就職力 就業力

「就業力育成支援事業GP」とは？

「新卒学生の就職率の向上、学生の資質能力に対する社会からの要請や、卒業後の職業生活などへの移行支援の必要性等の高まりを踏まえ、就業力の育成に主眼を置いて、全学的に教育改革を行おうとする大学に、国として緊急かつ強力な支援を行うこと」を目的としています。採択された大学に対しては、平成22年度から5年間にわたり、支援が行われます。

GP採択以前の茨城大学の取組は？

茨城大学では、今回のGP採択以前から、学生就職支援センターを中心にさまざまなレベルで多様な支援活動を展開してきました。その姿勢は、日本経済新聞社の『日経キャリア 親と子のかしこい大学選び2010』で「北関東・甲信越地域で最も就職支援に熱心な大学」に選ばれるなど、高く評価されてきました。

茨城大学の取り組みの特徴は？

1:「根力(ねぢから)」の定義…「茨大生にとっての<就業力>とは何か？」を追求し、「根力(ねぢから)」という名称で明確に定義しました。「根力」は、次の5つの要素から構成されます。

- ①基礎的素養 ②社会生活力 ③行動力 ④思考力 ⑤チームワーキング能力

1. 基礎的素養 *この素養の上に「根力」を構築していく	読 み	文章読解能力、論理的思考力、分析力
	書 き	文章作成能力、論理的思考力、分析力
	ソ ロ バ ン	基本的なIT能力
	話 す	説明能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力
2. 社会生活力	生 活 力	自立した生活を実践できる力
	人 間 関 係 構 築 力	生活を送る上で必要な、人間関係を円滑するための力
3. 行動力	情 報 収 集 力	生活を送る上で必要な、情報がどこにあり、どのようにすれば入手できるかを把握する力
	主 体 性	物事に進んで取り組む力
	働 き か け 力	他人に働きかけ巻き込む力
	実 行 力	目的を設定し確実に行動する力
4. 思考力	対 応 力	物事に流されず、疑問に思い主体的に対応する力
	課 題 発 見 力	現状を分析し目的や課題を明らかにする力
	計 画 力	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力
5. チームワーキング能力	想 像 力	課題が抱える影響、課題解決方法の影響など、状況をイメージする力
	課 題 解 決 力	課題の本質を捉え、適切な解決方法を提示する力
	発 信 力	自分の意見をわかりやすく伝える力
5. チームワーキング能力	傾 聴 力	相手の意見を丁寧に聴く力
	柔 軟 性	意見の違いや立場の違いを理解する力
	状 況 把 握 力	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力
	規 律 性	社会のルールや人との約束を守る力
	ス ト レ ス コ ン ト ロ ー ル 力	ストレスの発生源に対応する力



2：体系的で多彩なカリキュラム…「根力」育成に向けて、4年間を通じて学んでいく体系的なカリキュラム「根力育成プログラム」を構築します。根力養成－根力強化－根力実践の三段階合計12単位とスキル養成プログラム（教育課程外＝単位なし）という枠組みの下、多彩な授業科目を準備して根力を育成していきます。とりわけ「課題解決型（PBL）学習」を重視し、「電子ポートフォリオ」等の支援ツールも充実させます。プログラムは平成24年度から本格始動します！

1年	根力養成プログラム ①フレッシュマンゼミナール		スキル養成 プログラム (教育課程外)
2年	②ステップアップ 科目群	根力強化 プログラム	
3年			
4年	根力実践プログラム		



● 第一段階 根力養成プログラム（6単位）

- ①フレッシュマンゼミナール（4単位） 目標：高校生から大学生へ
- ②ステップアップ科目群（2単位） 目標：自分の方向性を確認して次の段階へ

● 第二段階：根力強化プログラム（4単位）

従来のインターンシップを発展・強化させるとともに、社会人による講義やPBL授業としての「企画実現・スタッフ編」など、「教室での勉強」から「実社会での経験」まで、幅広く準備していきます。

● 第三段階：根力実践プログラム（2単位）

「企画実現・実践編」や「SA」など、「実践」を重視した内容を中心に準備しています。また、学生就職支援センターと協力して、実際の就活を「勉強の場」としてより積極的に活用する手だても考えています。

● 教育課程外：スキル養成プログラム

昨年度は、東京の専門学校「LEC 東京リーガルマインド」の先生をお招きして、IT関係の国家資格である「ITパスポート」取得のための対策講座を開講しました。講義は水戸キャンパスで行いましたが、茨城大学の遠隔講義システムを活用して、日立・阿見の両キャンパスでもたくさんの先輩たちが受講しました。スキル養成科目として今後どのような科目を開講していくべきか、現在、みなさんのニーズを調べているところです。



水戸キャンパスでの講義風景

基本姿勢は「学生の自発的取組の後押し」 茨大生は、もともと高い能力を持っています。足りないのはそれを活かして磨いていくために「はじめの一步を踏み出す勇気」。茨城大学はその「一步」を後押しするしくみを提供します。

さあ、「はじめの一步」を踏み出そう！

茨城大学の就業力GPについての詳細は、下記までお問い合わせください。
学務部学務課大学教育センター係（共通教育棟1号館1階）
電話 029-228-8414

学生の声

先輩から、一年生へのアドバイス

茨大生版* 自立式学習法

人文学部社会科学科
2年 塚田千尋

長い夏休みも終わり、後期日程が始まります。専門科目の準備期間でもあるこの時期を有効に使い、周囲の友人より先にステップアップしませんか。その方法として、集中講義の履修を提案します。週末や長期休暇中に開講される集中講義では、休日を返上し授業に臨む学生が集まるため、受講生の意欲が高いです。また、集中講義は平時の講義とは異なり、1年生に偏らず1年生から4年生まで幅広く学生が集まり、先生だけでなく先輩方からも多くの知識を吸収できます。そのような中での授業は活気があり、ディスカッションはおおいに盛り上がります。集中講義のテーマとして、茨城大学ならではの地域社会に焦点を当てた講義が多く設定されており、学部問わず受講できるのも魅力です。2年生から始まる専門科目に向けて、様々な角度から物事を捉える力を身につけ、学問面でも充実した生活を送りましょう。前期に、椅子に座ってただ何となく講義を聞いていた人は心機一転、自分からトライしてみませんか。

後学期を迎える一年生へ

農学部地域環境科学科
2年 篠崎晴菜

後学期に入ると、農・工学部生にとって水戸で過ごす時間はあとわずかになります。二年生になると、他学部の友達ともなかなか会えなくなるので、今のうちに思い出作りをしておきましょう。私は大学生活を楽しむために、何か一つでも夢中になれるものを見つけるといいと考えます。私はボート部のマネージャーの仕事をする事で大学生活を充実させています。部活があるから勉強も頑張ろうと思えます。授業の方もおろそかにせず、農・工学部生は特に水戸通いにならないように真面目に受けておくようにしましょう。一年生の皆さんにはきちんとした目標を持って遊びすぎないように授業にのぞんで欲しいです。できる限り一年生のうちに単位を取っておけば、資格試験の勉強ができたり、四年生では就職活動に集中できたりと、将来のための準備ができるので時間を大事に使う事ができます。一年生の皆さんには前学期の自分を見直し、無駄な時間を過ごす事のないよう、勉強と遊びでけじめをつける事が後学期を楽しむ事に繋がると思います。

編集後記

- 暑さもすっかり影を潜め、朝晩はだいぶ冷え込むようになりました。体調に気をつけつつ励んでください。(宇野)
- 月日が経つのは早いもので、23年度も早や秋…。震災の最中スタートした前学期はドタバタと本当にあっという間でした。学生の皆さんにとってもいろいろと心配事が多かったことでしょう。今学期からはやっとふつ々の大学生活ですね。エンジョイしてください！(梅原)
- 2011年という大変な年に入学された皆さん、後学期は落ち着いて勉学に励むことができるのではないのでしょうか。部活動等も忙しいかとは思いますが、1年生の後学期は大切な時期です。勉強もがんばりましょう。(岡山)

発行日 平成23年10月/発行者 茨城大学 大学教育センター 水戸市文京2-1-1 029(228)8414(大学教育センター係)